

第18回 箕面市地域公共交通活性化協議会 会議録

1. 日 時

平成24年12月12日(水) 午前10時00分～午前11時30分

2. 場 所

箕面市役所 本館3階 委員会室

3. 出席者

(会 長)

- ・箕面市副市長 伊藤哲夫

(副会長)

- ・大阪大学大学院工学研究科准教授 松村暢彦
- ・箕面市地域創造部長 広瀬幸平

(監 事)

- ・箕面商工会議所専務理事 松出末生
- ・街づくり支援センターみのお 清田栄紀

(委 員)

- ・阪急電鉄株式会社都市交通事業本部都市交通計画部部長 庄健介
- ・阪急バス株式会社取締役自動車事業部長 西山哲
(代理出席) 自動車事業部副部長 野津俊明
- ・社団法人大阪タクシー協会常務理事 井田信雄
- ・みのおの交通を考える会 永田よう子
- ・粟生第二住宅自治会防犯防災交通部長 浜本俊二
(代理出席) 粟生第二住宅自治会会長 川本幹雄
- ・分科会の副分科会長 井上整
- ・大阪船場繊維卸商団地協同組合専務理事 工藤寛士
- ・株式会社ジェット統括本部長 妹尾一男
- ・東急不動産SCマネジメント株式会社箕面マーケットパークイゾラ総支配人 友金聡
(代理出席) 箕面マーケットパークイゾラマネージャー 東郷仁
- ・株式会社ビバーレコート・ビバーワールド箕面船場統括マネージャー 米津秀春
- ・国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局首席運輸企画専門官(輸送) 黒田唯雄
- ・大阪府池田土木事務所参事兼維持管理課長 錦織慎
- ・箕面市みどりまちづくり部長 山田学
- ・大阪府箕面警察署交通課長 秋田潤一
- ・箕面市市長政策室長 具田利男
- ・箕面市健康福祉部長 小野啓輔
- ・箕面市教育委員会事務局教育次長 中井勝次

(欠 席)

- ・国土交通省近畿運輸局企画観光部交通企画課長 加納陽之助(オブザーバー)
- ・国土交通省近畿運輸局自動車交通部旅客第一課長 阪部光雄(オブザーバー)

- ・大阪大学大学院工学研究科助教 猪井博登
- ・阪急バス労働組合副執行委員長 越智啓伸
- ・自転車道ネットワーク公募市民 松木亮
- ・有限会社箕面自動車教習所取締役総務部長 桐村敏昭
- ・国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局首席運輸企画専門官（総務企画） 南條正幸
- ・国土交通省近畿地方整備局大阪国道事務所管理第二課長 河合良治
- ・大阪府都市整備部交通道路室参事 森岡武一
- ・箕面市地域創造部活力推進室長 河原弘明
- ・学校法人大阪青山学園事務部経理課（地域連携室）課長 福田貴夫

以上、委員31名のうち22名出席、オブザーバー2名のうち2名欠席。

4. 議 題

- (1) 実証運行の状況について
- (2) 平成25年度の本格運行（素案）について
- (3) 休日限定の新たな実証運行（素案）について
- (4) その他

5. 議事要旨

(1) 実証運行の状況について

- 安全管理を徹底していただきたい。
→阪急バスと箕面市で協力しながら、さらなる安全強化を図っていききたい。
- 収支に対する今後の考え方を教えていただきたい。
→収支率5割を目標としながら、計画を立てていききたい。

(2) 平成25年度の本格運行（素案）について

【意見・質疑応答は次のとおり。】

- 粟生第二住宅の代表として、見直し案で提示されている奥・粟生間谷西四丁目のショートカットは賛成できない。
→オレンジゆずるバス全体の運行を考えると、ショートカットはやむを得ないと考えている。
利用状況等、運行当初に定めた評価・見直し基準もふまえながら、分科会等での議論をもとに導かれた結論であり、ご理解いただきたい。
- 来年度の運行主体と協議会のあり方について、教えていただきたい。
→来年度以降についても、この協議会で運行主体を担っていただきたい。なお、協議会については、規模の縮小も行いながら、最長で平成30年まで存続させたいと考えている。

(3) 休日限定の新たな実証運行（素案）について

【意見・質疑応答は次のとおり。】

○運行内容が休日のみ異なることについて、利用者の混乱防止を避けるためには、周知活動の徹底が必要であると思う。

→ソフト面、ハード面双方から、利用者の混乱防止策を考えていきたい。

○運行時間帯については、帰宅目的の利用もふまえて、もう少し長い方がいいのではないかな。

→既存の利用状況をふまえ、17時台を最終にすることが妥当であると考えている。

○パターンダイヤ実現のための調整時間について、利用者の負担にならないように工夫してほしい。

→利用者の利便性を確保できるよう、阪急バスと調整する。

○箕面五丁目あたりの買物利用者の利便性を図るため、バス停を新設することはできないかな。

→分科会でも同様の意見があったが、過年度からの経緯もふまえ、現在の案となっている。

○市内移動の円滑化を図るため、乗継利便性を考慮したダイヤにしていきたい。

→利用者の利便性を確保できるよう、阪急バスと調整する。

○一日乗車券が一般利用者の往復利用と同額（400円）であることは、かなり魅力的であると思う。ちなみに、高齢者についても、400円が適用されるのかな。

→高齢者については、高齢者運賃割引制度を適用した1乗車100円の2倍である200円とする。

(4) その他

○今後のスケジュールについて、教えていただきたい。

→パブリックコメントや説明会を経て、本格運行の準備を進めていく。そのうえで、本格運行については、平成25年5月から実施する。

○松寿荘開設のタイミングとズレがあるのではないかな。

→本格運行が5月からなので、4月の1ヵ月間は現状の松寿荘前バス停を利用していきたい。

以上